



サイクルステーションは現在道内67箇所に設置されている

今秋には、札幌〜留寿都〜ニセコと、総走行距離百四十キロをプロガイドと走る二泊三日のモニターツアーを催行した。このほかにも、休憩スポット不足を解消するため、道内の主要コースにサイクルラックと空気入れを常備したサイクルステーションを設置したり、旅行者を安全に案内するサイクルガイドの育成に向けた研修会も実施している。



ガイドブックでは初級〜上級コースと設定して紹介している(全46P)市内ホテル・サイクルショップなどで配布中(無料)詳しくはこちら
http://www.hokkaido.cci.or.jp/cycletourism-hokkaido/

モデルコースを紹介するガイドブックを発行。沿線にある飲食店、温泉施設、ローカルスポットや土産品情報なども紹介している。

ニセコ・空知・後志エリアでインバウンドを中心にスキー・サイクリングガイドと地域情報を提供するコンサルタント会社(株)アーチの取締役社長高橋幸博氏も協議会で活躍する一人。ニセコはすっかり国際的なリゾート地となり、昨冬は過去最高の売上を記録したという。しかし、夏季は通過地点となっている課題は残る。高橋氏は新しい滞在型メニューとしてサイクリングツーリズムに可能性を感じ、現場の声を自治体などへフィードバックして環境整備を働きかけている。

同社の客層の多くは、インバウンドの富裕層。彼らが喜ぶのは「今だけ、こだけ」をキーワードにしたストーリー性のあるメニューだという。実際にツアーでは地元の人とふれあい、丘の上から走ってきた道を一望して、ゴールのワイナリーでは、シャンパンで乾杯。こんなストーリーを描ける内容が喜ばれている。「とくに海外の方は旅での出会いを大切にします。英語が話せなくても指差し会話でOK。きつかけさえ作ってしまえば、無理な演出をしなくても雰囲気十分に楽しんでもらえる」

北海道を「サイクリングの聖地」として売り出したい

(株)アーチ

特集

地域資源を磨く ビジネス

地域を元気にする方程式

北海道には優れた地域資源が豊富にあり、それを活用した商品やサービスが地域活性化の起爆剤となっている。政府も日本再興戦略(成長戦略)に「地域資源活用」を組み込み猛プッシュ。今後ますます活発化が予想される地域資源活用ビジネス。—今どんなものが生まれているのか

当たり前にあるものが「宝」になる

占冠村の星野リゾートトマム。ここでは夏季になると、早朝のまだ薄暗い時間からゴンドラに乗る人で行列ができる。お目当ては山頂にある「雲海テラス」だ。眼下に広がる幻想的な雲海を眺めながらコーヒーが楽しめる。全国的に有名になり、雲海を目当てに多くの観光客が訪れる。オープンから八年目を迎えた今年はシーズン中の来場者が十一万人を突破。今では同村を代表する名所となった。昔から変わることなく発生していた雲海を同リゾートが観光資源として位置付け提供することで経済価値を生み出した有名な事例だ。

地域資源活用事業 その1

サイクリングを通じた観光資源の発掘

今、北海道にアジアを中心としたサイクリング旅行者が増えている。地元の人にとっては当たり前景色、ただの農道でも、海外観光客の目には雄大な自然、あこがれの北海道として写る。

本格化する環境整備
サイクリング
ツーリズムへの期待

当所では、サイクリング観光客の受け入れ環境整備に取り組む「サイクルツーリズム北海道推進連絡会」を昨年立ち上げた。現在北海道八エリアの市町村自治体と行政、民間企業など四十四団体が登録し活動している。今年十月には、八エリア全二十の

と語る。一方で、サイクリングツーリズムはまだ始まったばかり。コンテンツの発掘が足りないため、積極的に海外のエージェントに売り込むことができない現状も語る。「長距離を移動するので、道内全域が連携しなくてはならないもの

地域資源活用事業 その2

マンガ・アニメコンテンツを活用してまちおこし

マンガを通じて
その街を知る

国際的にも評価が高い日本のマンガやアニメなどのコンテンツは、「クール・ジャパン」とも総称され、その市場は成長を続けている。観光資源としても有効で、マンガやアニメの舞台となった地を巡る「聖地巡礼」は、地域にもたらす経済効果も大きいようだ。

当所では、平成二十二年より札幌を舞台にしたマンガ作品を活用して新たな観光資源の発掘と発信、観光客誘致に取り組んできた。今年十一月には、札幌を舞台にしたマンガ「札幌乙女」



マンガ「札幌乙女ごはん。」全28P105円(税込)市内書店・土産店にて販売中販売店情報は下記HPへ
http://mantabi.net/

はん。」を発行。主人公小田早織(札幌在住)の日常を描く中で、さりげなく実在の観光地や飲食店が登場する。マンガは札幌在住の漫画家松本あやか氏が手掛け、道内唯一のマンガ出版社(有)エアタイプが企画・編集を担当した。今後も継続的に続編を発行するほか、首都圏の旅行代理店と共同で、マンガに基づく聖地巡礼商品を造成し道外客を呼び込もうと計画している。



高橋幸博取締役社長
(株)アーチ
札幌市東区南一条東7丁目3-2
TEL: 0136-55-7475

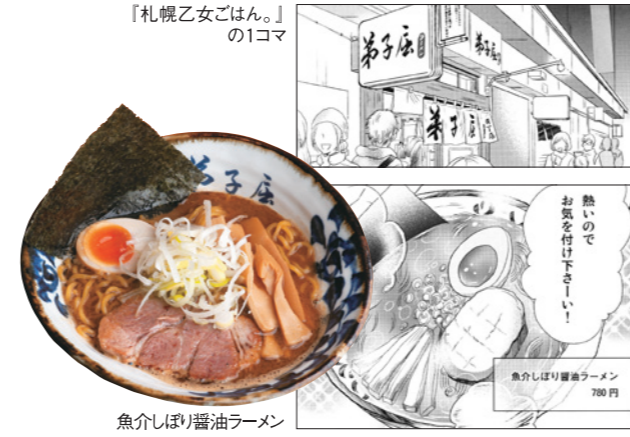
なのに、これまで縦割りでの整備が進められてきました。この協議会を立ち上げたことで北海道が一丸となって取り組むことができると感じています」と高橋氏は期待している。



雲海テラス(写真提供:星野リゾートトマム)

素材に出会い、それを「地域の味」にする
(株)エフビーエス(弟子屈ラーメン)

「この『魚介しぼり醤油ラーメン』は当店の看板メニューです。弟子屈近郊で採れる魚介と白菜をふんだんに使用し、手間を惜しまず作っています」。そう語るのは弟子屈ラーメンを運営する(株)エフビーエス代表取締役社長の菅原憲一氏。作品の中では、客の目の前でチャーシューをあぶる同店を象徴するシーンも描かれている。「マンガで表現するということに新鮮さを感じ、限られたコマ数の中で、特徴や味をどう表現するのか興味がありました」と話す。「素材と製法を地域の味として売り出したい」と、同社は可能な限り弟



「札幌乙女ごはん。」の1コマ
魚介しぼり醤油ラーメン

子屈町周辺で採れる食材を使用し、同町に古くから伝わるラーメンの作り方を再現することにこだわっている。餃子はビタミンやミネラルが豊富な道産の行者にんにくをふんだんに使

「文化と創造の聖地」を目指し
独自色を打ち出す
ノルベサ

すすきの中心部、巨大な観覧車が目を引く複合商業施設「ノルベサ」。マンガの中では、主人公たちが二次会に訪れる。

二〇〇六年に開業し、ファッションや飲食店、アミューズメント店などを擁してきた同施設は今、札幌で生まれるクリエイティブコンテンツなどにスポットをあてた新しい文化の拠点として生まれ変わろうとしている。支配人の清水俊博氏は、「近年はファストファッションや通信技術の普及などで消費者のお金の使い方が変わってきました。独自色を打ち出さなければ、生き残れない厳しい時代です。ゲームやコミックなどがベースとなっ



11月に開催したイベント「クール北海道フェスティバル」。今回は「ロリータの世界に触れる」イベント内容。

たコンテンツ産業のポテンシャルには非常に大きなものがあると期待しています」と説明する。

同施設では、三年前にまんが・アニメ・同人誌などを扱う「まんだらけ」がテナント店として入居したことをきっかけにマンガの原画展や声優を招



菅原憲一代表取締役社長
(株)エフビーエス
札幌市中央区南2条西10丁目2番地山内ビル3階
TEL: 011-280-2587



支配人清水俊博氏(右)とプロパティマネージャー丁輝氏
ノルベサ
運営会社:ジョーンズラングラサール(株)
札幌市中央区南3条西5丁目1-1 TEL: 011-271-3630

地域資源活用事業
その3
天然素材たっぷり。
北海道だけの特別なエステ「ホワイトエステ」

北海道は「綺麗になれる」
素材の宝庫

ホワイトエステとは、道産の素材を用いた化粧品「ホワイトコスメ」を使用する北海道だけの特別なエステのこと。当所では、一昨年より、NPO法人北海道ホワイトビューティー協会と連携し、コスメの開発、質の高い施術・技術の研究、さらには普及活動を行ってきた。同協会認定のエステサロン



今年度開発した道産牛乳を使ったパック(試作品)

であれば、どのサロンでも同一内容の施術が受けられるため、旅行者にも安心・安全なエステとして、地域ブランド定着を目指している。

出会いも地域資源。地元の人と観光客をつなぎあわせる仕事
(株)北海道宝島旅行社

当所ではホワイトエステを知ってもらおうと昨年より無料体験プログラムを提供している。その集客協力を(株)北海道宝島旅行社に依頼した。代表取締役社長の鈴木宏一郎氏は九州出身・関西育ち。(株)リクルートに就職し、北海道支社では人材関係と地域活性化業務を担当。北海道の温かい人柄に触れ、「北海道のための会社」を設立したいと独立した。

同社が運営する「北海道体験.com」は道内でもできる体験プログラムを集め、検索・予約ができるサイト。年間およそ二万件にのぼる同サイトの利用者へホワイトエステを売り込んだ。編集長の林直樹(代表取締役副社長)氏は「昨年は無料体験プログラムとしてお客さまご自身でエステサロンに移動していただく仕組みでしたが、旅行者の立場で考えると、見知らぬ旅



「北海道体験.com」エリア・ジャンルなどでメニュー検索できる
http://h-takarajima.com/

先でその店を探して行くのは少し抵抗があるのではと思い、今回は送迎付(有料)のプランを提案しました。女王さま気分ぜひ体験してもらいたいです」と話す。

同サイトを立ち上げた大きな目的は、地域資源の魅力を伝える地元の人と旅行者を結びつけるため。鈴木氏は「リピーターを創出するためには、景観や食事など個々の要素を磨くことに加えて、地域に住む「人」との交流を演出することが重要だと思っています」と語る。例えば、その地域の名物をただ食べるのと、その名物の歴史や文化を地元の人に聞きながら食べるのとは感度が違う。そんな地域のDNA(歴史や文化)を体験でき



鈴木宏一郎代表取締役社長
(株)北海道宝島旅行社
札幌市中央区南2条東2丁目大都ビル801
TEL: 011-252-2115

る旅のプログラムをもっと多くの人に知ってもらいたいという。「国内外からお越しになるお客さまに『忘れられない思い出ができた北海道に、また何度も来たい』と言ってもらいたい」と、これからも鈴木氏は資源発掘に挑戦し続ける。

当所事業に関するお問い合わせ
札幌商工会議所 部会・産業部
活用事業その① 観光課 TEL:011-231-1369
活用事業その②、その③ 産業3課 TEL:011-231-1375